

判決ニ基キ被告ヨリ裁判費用ヲ取立ツルトハ假リニ中止スヘシト命シタリ
其理由左ノ如シ

理由

裁判費用規則第七章ヲ按スルニ費用豫納及費用支拂ノ區別ヲ爲シ費用豫
納ハ裁判申請人ヨリ之ヲ爲スヘク費用支拂ノ義務ハ訴訟手續又ハ審理カ
裁判費用規則第九十三條ニ基キ終了シタルトモ發生スルモノトス而シテ同
條ニ據ルニ言渡サレタル判決ノ確定力ヲ得タル事ハ以テ其終了ノ要件ト
爲ササルモノ、如シ

(一)我ニ無シ
獨斷第百十一
條ニ曰ク
原告控訴人及
上告人ニ對ス
ル受救權ノ附
與ハ同時ニ相
手方ニ對シ第
百七條第一號
(我第九十七
條第一號ニ

然レトモ此原則ハ訴訟上ノ救助ニ關スル法規就中民事訴訟法第百十一條
及ヒ第百十四條ニ依リテ其精神ヲ貫ク能ハサルニ至レリ即チ之ニ據ルニ
訴訟ノ進行中被告カ訴訟上ノ救助ヲ得次キニ其費用ノ負擔ヲ言渡サレタ
ルトハ原告ハ先キニ豫納シタル費用ノ返戻ヲ請求スルヲ得ス然レモ先キ
ニ被告ヨリ支拂ハサルヘカラサリシニ其身上ノ貧窮ナルカ爲メ訴訟上ノ
救助ヲ得テ假リニ其支拂ヲ免レタル費用ニシテ原告カ遂ニ敗訴ニ歸シタ

掲ケタル費用
ヲ假ニ免除ス
ル効力ヲ生ス
(二)我第九十
九條ニ當ル

ルカ故又ハ他ノ理由ニ依リ之ヲ引受ケサルヘカラサルニ至リタルトハ其
裁判確定シ若クハ其訴訟全然終了ヲ告ケ又ハ司法行政ヨリ裁判費用規則
第九十四條第一號ニ基キ督促セルニ拘ハラス尙ホ等閑ニ附シタル場合ニ
非ラサレハ之ヲ原告ニ對シテ請求スルヲ得サルモノトス
之ニ反シテ原告カ訴訟上ノ救助ヲ許サレタル場合ニハ當該審級ニ於ケル
費用ハ被告ヨリ之ヲ豫納スル義務存立セサルナリ唯其訴訟被告ノ敗訴ニ
歸シテ其裁判確定スルカ若クハ費用ニ關スル判決ノ言渡ヲクシテ終了シ
タル時初メテ費用ノ計算ヲ爲シ之ヲ被告ヨリ取立ツルヲ得ヘシ

本件ノ場合ニハ原告ハ第一審第二審共訴訟上ノ救助ヲ許サレタリ故ニ被
告ハ第二審ニ於テ言渡サレタル被告ノ敗訴ノ判決確定スルマテハ費用支
拂ノ義務ヲ假リニ免セラルヘキモノトス前審裁判所ハ被告ノ異議ヲ却下
スル決定ヲ下スニ當リ裁判費用規則第八十六條第八十七條及第九十三條
ヲ援用シタリ然レモ此等ノ條項ハ費用支拂ノ資力ヲ有スル者ニ對スル費
用豫納及其支拂義務ノ事ヲ定メタルモノニシテ救助事件ニハ適用スヘキ

限リニ在ラス故ニ之ヲ以テ本件ヲ裁判スルノ標準ト爲スハ誤謬タルヲ免
レヌ

上告ニ關シテハ原告カ第三審ニ於テモ訴訟上ノ救助ヲ許サレタルニ拘ハラ
ス被告即チ上告人ヨリ上告審ノ費用豫納ヲ請求セラレタリ而シテ上告人ハ
之ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲シタルニ大審院ハ左ノ理ニ依リ之ヲ却下シタ
リ

理由

民事訴訟法第七條ニ據レハ訴訟上ノ救助ヲ得タル當事者ハ裁判費用支
拂ノ義務ヲ假リニ免除セラル而シテ訴訟上ノ救助ヲ得タル貧窮者ニシテ
第一審第二審共原告ノ地位ニ在ルトキハ其對手ハ同法第一百一條ニ基テ
亦其費用支拂ノ義務ノ假免除ヲ得ルモノトストアリ此ニ由リテ是ヲ觀レ
ハ對手カ此恩典ニ浴スルヲ得ルハ只貧窮者ノ攻撃ニ對シ其權利防禦ヲ
爲ス場合ニ限ルヲ明ナリ故ニ對手カ自ラ原告トナリ又ハ控訴人トナリ若
クハ本件ノ場合ノ如ク上告人トナル場合ニハ此恩典ヲ受クルヲ得サルヤ

(三)我第九十
七條ニ當ル

亦論ヲ俟タス

上掲法律ノ解釋ハ千八百八十三年二月十三日ノ決定ト取テ牴觸スルコトナ
シ右決定ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ許サレタル原告及控訴人カ法律上支拂
ノ假免除ヲ得タル費用ヲ有資力ノ被告及被控訴人ニ對シテ其敗訴ヲ言渡
シタル裁判ノ確定前若クハ訴訟ノ有効ナル終局前ニ取立ツルコトヲ許スヘ
シトノ事ヲ決シタリ故ニ此決定ハ被告ノ利益ニ決セラレタルモ之ト同時
ニ有資力ノ當事者カ控訴人又ハ上告人トナル反對ノ場合ニ右當事者ハ決
定ノ費用豫納ノ義務ヲ免除セラルヘシト認定セサルナリ

(第二百三)

貧窮者ノ附添ヲ命セラレタル官選辯護士ハ
裁判所書記ニ對シテ裁判記録ノ正本無料作成ヲ
請求シ又自己ノ費シタル謄寫料ハ國庫ニ對シテ
之カ賠償ヲ要求スル權アリヤ

(千八百八十二年五月十六日決定)

理由

〇千八百八十
二年五月十六
日決定

(二)我第二百二十五條ニ當ル

(二)我第九十七條ニ當ル

民事訴訟法第二百七十二條ニ據レハ當事者ハ訴訟記録ノ閱覽ヲ求メ又裁判所書記ニ依頼シテ其謄本抄本及正本ヲ求ムルヲ得ヘシ然レモ裁判所書記ハ裁判費用規則第九十七條ニ基キ書類ヲ當事者ニ附與スルニハ作成料ノ前納ヲ申付クル權アリ然リ而シテ救助事件ニ於テハ其救助ヲ得タル當事者ハ民事訴訟法第七條ニ依リ裁判費用現金ノ立替金ヲモ包含ス支拂ハ假免除ヲ得タルヲ以テ此等相當ノ書類認料裁判費用規則第七十九條及第八十條ヲモ直ニ支拂フヲ要セス隨テ裁判所書記ハ苟モ權利伸張ニ必要ニシテ裁判記録ニ包含セル書類ニ付テハ官選辯護士ノ請求ニ應シ無料ヲ以テ其正本若クハ抄本ヲ作成附與セサルヘカラス

然レモ裁判所ハ場合ニ應シ附添ノ官選辯護士ヲシテ裁判記録ヲ裁判所又ハ辯護士ノ住所ニ於テ閱覽スルヲ許シ又自ラ其正本及抄本ヲ作成セシムルヲ得而シテ此際辯護士カ事件ノ都合ニ依リ筆生ノ補助ヲ要スルトハ之カ爲メニ費シタル必要ノ謄寫料ハ國庫ニ對シテ賠償ヲ請求スルヲ得ヘシ

本件ノ場合ニ於テハ控訴院ハ千八百八十一年五月十日ノ決定ヲ以テ抗告人

(三)我第四百五十五條ニ當ル

○千八百八十三年七月十四日決定

ニ記録ヲ送達シ八日間ノ期間ヲ限リ閱覽若クハ正本及拔萃作成ノ用ニ供ヒシメ以テ千八百八十一年二月二十六日ノ證人訊問調書ニ關スル無料正本ノ申請ヲ暗黙ニ却下シタリ以上ノ事實存スルノミナラス千八百八十一年五月十九日ノ申請ニ基キ同月二十五日控訴院ノ下シタル命令アルヲ以テ裁判所カ訊問ヲ受ケタル證人ノ陳述ノ抄本ハ既ニ之ヲ附與シタリ辯護士ハ自ラ必要トスル拔萃ヲ作成シタルナルヘシトノ推定ヲ爲スハ至當ニシテ抗告人ハ此推定ヲ辭スルヲ得ス若シ辯護士ニ於テ良心ニ基キ尙ホ其他ニ數多必要ナルモノアリテ之カ謄寫ノ爲メ金員ヲ費シタルニ依リ其賠償ヲ國庫ヨリ請求セント欲スルトキハ其事情ヲ裁判所ニ申出テサルヘカラス而シテ裁判所カ之ヲ拒否シタル場合ニハ抗告ヲ爲サルヘカラス然レトモ今ヤ訴訟既ニ終了ヲ告クルヲ以テ此抗告ハ民事訴訟法第五百三十條ニ基キ提起スルヲ得ス以上ノ事情ニ依リ證據決定及ヒ證人訊問調書ノ完全ナル正本作成ハ之ヲ正當ト看做スヲ得ス

【第二百四】 訴訟上ノ救助ヲ許サレタル者ニ附添フ辯護

士ハ自己ノ名義ヲ以テ費用確定決定ニ對シテ抗告ヲ提起シ得ルヤ

(千八百八十三年七月十四日決定)

地方裁判所ハ原告ヨリ被告ニ判決確定後辨濟スヘキ費用ヲ被告ニ附添ヒタル辯護士甲ノ申立ニ依リ確定シタリ然ルニ原告ハ右費用確定決定ニ對シ不服ヲ申立テタルニ控訴院ハ之ヲ取消シ抗告審ノ費用ハ辯護士甲ノ負擔タルヘシト言渡シタリ其理由ハ甲ハ判決後任セラレタル救助辯護士ナルヲ以テ訴訟手数料又ハ其他ノ費用ヲ清算スル權ナク而シテ抗告審ノ費用ハ自己ノ過失ニ依リテ生シタリト云フニ在リ辯護士甲ハ右ノ決定ニ對シ抗告ヲ提起シタルニ大審院ハ之ヲ受理シタリ其理由左ノ如シ

理由

概シテ之ヲ論スルルハ辯護士ハ當事者ノ費用確定手續ニ關スル決定ニ對シテ自己ハ名義ヲ以テ抗告ヲ提起スルハ權ナシ特ニ價額確定決定ニ關スル辯護士手数料規則第十三條ヲ之ニ援用スルヲ得ス(千八百八十三年六月二日ノ

(一)我第九十九條第二項ニ當ル

(二)我第七十五條第四項ニ當ル

○千八百八十四年九月二十六日判決

決定參照隨テ亦辯護士ハ費用確定手續ニ於ケル對手ノ抗告ニ基キ下サレタル抗告裁判所ノ決定ニ對シ自己ノ名義ヲ以テ抗告ヲ爲スノ權ナシト謂ハサルヘカラス然レモ本件ノ場合ノ如ク貧窮者ニ附添フ辯護士カ民事訴訟法第九十五條ニ基キ自己ノ手数料及ヒ立替金ヲ訴訟費用負擔ノ言渡ヲ受ケタル對手ヨリ取立ツル目的ヲ以テ之カ確定ヲ申渡シタル場合ハ頗ル前掲ノ場合ト其趣ヲ異ニスル所アリ此場合ニハ辯護士本人カ法律ハ規定ニ基キ債權者トシテ對手ニ對抗スルモノナルハ亦自己ノ名義ヲ以テ民事訴訟法第九十九條第三項ニ定ムル抗告若クハ抗告裁判所ノ決定ニ對スル抗告ヲ提起シ得ルト亦疑ヲ容レズ依テ本件抗告人ハ抗告裁判所ノ費用ニ關スル裁判ニ限り本抗告ヲ提起スル權アリト認メサルヲ得ス

(第二百五)

控訴審ノ爲メニ救助ノ附與ヲ申請シタル當

事者豫メ控訴ヲ提起セス控訴期間經過シタルキハ避クヘカラサル事變ナリト謂フヲ得ヘキヤ否ヤ(原狀回復ヲ許スヤ否ヤ)

(千八百八十四年九月二十六日判決)

原告ハ地方裁判所ノ判決ニ對シテ控訴ヲ提起セシカ爲メ控訴院ニ於テ救助
附與ノ申請ヲ爲シタルモ權利伸張ノ見込ナシトシテ其申請ヲ拒否セラレ而
シテ大審院ニ抗告ヲ爲シ遂ニ其許可ヲ得タリ然ルニ原告ニ附添ヒタル辯護
士ハ既ニ控訴期間内ニ於テ控訴書面ヲ送達セシムルコト能ハサリシヲ以テ
原狀回復ノ申立ヲ爲セリ控訴院ハ原告ハ一時假ニ控訴ヲ提起セシムル資力
ヲモ有セサルコトヲ疏明スルヲ得タルナリトノ理由ヲ以テ控訴ヲ許スヘカ
ラサルモノトシテ棄却セリ而シテ大審院ハ左ノ理由ニ依リ控訴判決ヲ破毀
シ原狀回復ヲ許シタリ

理由

控訴判決ハ當事者ニ對シ而カモ救助附與ノ申請ヲ爲シタル當事者ニ對シテ
其權利伸張ハ輕忽ニ出テタルモノナリトシ又ハ見込ナキモノナリトシテ其
附與ヲ拒否セラルル場合ニ對シテ爲シ得ヘキ限リノ用意ハ申請ヲ爲スノ際
ヨリ豫メ之ヲ爲ササルヘカラスト要求スルモノナリ

(二)我第九十
一條ニ當ル

假令此クノ如キ用意ヲ爲スニ依リ不變期間ヲ保存スルコトヲ得ルモノナリ
トスルモ當事者ニ對シ控訴院ノ裁判ノ或ハ不利ナルヘキヲ豫想シ敢テ少額
ナラサル費用ヲ支出セヨト求ムルハ事情ノ性質ニ反シ亦法律ノ規定ニ背ク
ルモノト謂ハサルヲ得サルナリ
民事訴訟法第百六條ハ自己及ヒ其家族ノ必要ナル生計ヲ害スルニ非ラサレ
ハ訴訟費用ヲ出タスコト能ハサル訴訟當事者ハ救助附與ノ請求即チ權利ヲ
有スルコトヲ認メ而シテ其要件トシテハ當事者ノ目的トスル權利伸張又ハ
權利防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非ラスト見ユルコトヲ要ストセリ此
要件アルカ故ニ當事者モ亦自カラ其權利伸張ハ見込ナキニ非ラスト思惟シ
救助附與ノ申請ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラスト故ニ亦當事者ハ裁判所カ其
申請ヲ正當當事者ノ思惟スル所ニ從ヘハニ裁判スヘシ即チ自己ノ信スル所
ト同一ノ結果ヲ得ルナラント期圖セルモノト謂ハサルヘカラスト
當事者ノ見ル所ハ其事情ニ於テ此クノ如クナラサルヲ得ス當事者カ敢テ準
備ノ爲メニ控訴ヲ提起シ費用ヲ出タスコトヲ爲サル所以ハ是ニ在リ亦至當

(二)我第九十七條ニ當ル
(三)我第七十四條第九十一條及第九十七條ニ當ル

ナリト謂フヘシ、サレハ此準備ヲ爲ササルハ救助附與ノ申請ヲ爲セハ控訴ノ不變期間ヲ保存スルコトヲ得ヘシト誤信セルニ因ルニ非ラサルナリ。裁判ノ結果若シ當事者ノ不利ニ歸シ而カモ其裁判ハ抗告審ニ於テ失當ナリト認メラレタルニ於テハ當事者ニシテ救助附與ノ申請及抗告ヲ提出スルニ關シ何等ノ懈怠ヲモ爲サリシ限リハ當事者ハ避クヘカラサル事變ノ爲メニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ妨クラレタル者ナルコト復タ疑フ可カラス。救助ノ附與ヲ申請スル當事者ニ對シテ其申請ニ付キ或ハ控訴院カ不利ナル決定(而カモ抗告審ニテ破毀セラル、コトアルヘキ)ヲ爲スコトアルヘキ場合ニ應セソカ爲メニ費用ヲ支出スヘキコトヲ敢テ求ムルハ是レ其據ルヘキ所法律ニ存セサル事タリ寧ロ法律(民事訴訟法第七條)カ救助權ノ附與ニ伴ヒ何人ヲ問ハス何等ノ制限ヲモ加ヘス當事者ニ附與シタル所ノ權利ヲ不當ニ狹縮スルモノナリト謂フヘシ。此故ニ控訴判決ハ民事訴訟法第二百一十一條第六條及ヒ第七條ノ規定ニ違背セルノ故ヲ以テ之ヲ破毀セサルヘカラス。

○千八百八十五年二月五日決定
(一)我第一百條ニ當ル

控訴判決ノ事實ニ據レハ地方裁判所判決ハ十二月十二日ニ於テ原告ニ送達セラレ原告ハ既ニ十二月十四日ニ於テ救助附與ノ申請ヲ爲シ而シテ其申請ハ十二月二十七日控訴院決定ニ依リ拒否セラレタルモ一月十六日大審院ニ於テ認許セラレ且ツ既ニ一月二十四日ニ於テ控訴ノ提起アリタルナリ則チ民事訴訟法第二百一十一條ノ要件ハ悉ク具備セルヲ以テ同時ニ事件ニ付キ裁判ヲ爲シ原狀回復ヲ許セリ。

〔第二百六〕

救助ヲ附與セラレタル當事者ノ一時清濟ヲ

免除セラレタル額(民事訴訟法第一百十六條)ヲ追拂

ヒスル義務ニ付テノ裁判ハ訴訟ノ終了後ニ於テ

何レノ裁判所之ヲ爲スヤ

當事者一時清濟ヲ免除セラレタル額ノ一分ノミ

ヲ清濟スルコトヲ得ルトキハ之ヲ追拂フコトヲ

要スルヤ否ヤ

(千八百八十五年二月五日決定)

被告ハ初メ控訴審ニ於テ救助ヲ附與セラレ後又上告審ニ於テ救助ヲ附與セラレ最終判決ニ依リ總審級ノ費用ノ大部分ヲ負擔セシメラレタリ其後大審院會計局ハ被告ノ管轄公廳ニ對シ被告ハ別項記載ノ上告審費用ノ全部又ハ一分ヲ清濟スルコトヲ得ルニ至リタルヤ否ヤヲ調査スヘキ旨ヲ囑託シ管轄公廳ハ被告ハ該費用額ノ一分ヲ清濟スルコトヲ得ル旨ヲ回答セリ此報告ニ基キ會計局ハ大審院ニ對シ民事訴訟法第一百六條ニ從ヒ費用追求ニ付キ決定ヲ爲スヘキ旨ヲ委託シタルニ大審院ハ左ノ命令ヲ爲セリ

會計局ニ回答スルニ大審院ハ本件費用ノ追拂ニ付キ決定ヲ爲ス能ハサルコトヲ以テ民事訴訟法第一百六條及第一百七條ニ從ヒ訴訟ノ經過中ニ於テ貧窮當事者ニ延期ヲ許シタル訴訟費用ハ總テ同一ノ條件ニ依リ(第十六條之カ)追拂ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ其追拂ハ合一ニノミ之ヲ命スルコトヲ得ルモノトス且ツ其命令ニ付テノ管轄權ハ民事訴訟法ニ於テ反對ノ規定ナキヲ以テ第一審ノ裁判所ニ之ヲ歸セサルヘカラス如何トナレハ第一審裁判ハ債

(二)我第九十
一條及第九十
七條ニ當ル

○千八百八十
五年六月二十
六日決定

務者ノ支拂能力ヲ審査スルニ最適當ナルモノナレハナリ又如何トナレハ此命令ニ對シ又ハ此命令ノ拒否ニ對シテ異議ヲ申立ルノ途ヲ正當ナル理由ナクシテ阻絶シ又ハ制限スルハ固ヨリ不可ナル所ナレハナリ

會計局ニ對シ尙ホ一言ノ注意ヲ加フルヲ要ス被告ハ其負擔ニ歸セラレタル費用ノ一分ヲ清濟スルコトヲ得トノ報告ニ基キ其費用ノ追拂ヲ命スルハ爲シ得ヘカラサル所ナリ蓋シ民事訴訟法第一百六條ノ趣旨ニ據レハ其理由書ニモ説明セル如ク債務者ノ延期セラレタル費用ヲ支拂フ義務ハ債務者カ「第百六條ノ意義ニ於テ貧窮ナラサル」コトニ依リ生スルモノトス而シテ第百六條及第七條ニ從ヘハ救助ハ訴訟費用ノ一分ノ延期ノミニ付テ之ヲ附與スルコトヲ得サルモノトスサレハ債務者ハ自己及其家族ノ爲メニ必要ナル生計ヲ害セスシテ訴訟費用ノ全部ヲ清濟スルコトヲ得ルニ至ラサル限ハ尙ホ第百六條ノ意義ニ於テ貧窮ナル者タルナリ

〔第二百七〕

管轄裁判所ヨリ貧窮ナル當事者ニ附添ハシメタル辯護士ハ當事者ノ目的トスル權利伸張ヲ

見込ナキモノト思惟スルカ爲メニ其代理ヲ拒否
スルコトヲ得ルヤ否ヤ

(千八百八十五年六月二十六日決定)

控訴院ハ上ニ掲ケタル如キ場合ニ於テ辯護士ハ其代理ヲ拒絕スルコトヲ得
ストノ決定ヲ爲シ而シテ大審院ハ此決定ニ對スル抗告ヲ却下シ抗告人ヲシ
テ費用ヲ負擔セシメタリ

理由

民事訴訟法ハ其第六條ニ於テ管轄裁判所ニ委ヌルニ貧窮ナル當事者ハ目
的トスル權利伸張ハ輕忽ナルニ非ラサルヤ又ハ見込ナキニ非ラサルヤニ付
テ豫シメ調査ヲ爲ストヲ以テセリ是レ即チ裁判所ヨリ貧窮ナル當事者ニ附
添ハシメタル辯護士ヨリ其事件ノ見込ナキカ爲メニ代理ヲ拒ムコトヲ得サ
ルモノナルヲ同時ニ言現ハセルモノト謂ハサルヘカラス若シ然ラサレハ
辯護士ハ毎ニ其指命セラレタル事件ヲ輕忽ナリトシ又ハ見込ナシトシ言テ
之ニ託シテ救助事件ニ於ケル代理ハ總テ之ヲ拒絕スルコトヲ得ヘク從テ受

(二)我第九十
一條ニ當ル

訴訟所ノ所屬辯護士悉ク其引受ヲ拒絕シ當事者ハ遂ニ辯護ヲ爲スノ權利
ヲ失フニ至ルヘキナリ

民事訴訟法ハ任設セラレタル辯護士ニ與フルニ救助附與ニ付キ又ハ附添ノ
命令ニ付キ異議ヲ申立ルノ權ヲ以テセス唯辯護法第三十一條及第三十六條
ニ於テ辯護士ハ一定ノ場合ニ於テ其遺囑ヲ受ケタル代理ヲ引受ケサルコト
ヲ得即チ辯護士カ其業務ヲ行フコトヲ拒絕スル義務アルトキ第三十一條ハ
代理ヲ引受ケサルコトヲ得ト規定セルニ過キス而シテ辯護士ハ第三十一條
ニ掲クル原因存スル場合ニ限ラス尙ホ他ノ場合ニ於テモ裁判所ニ對シテ訴
訟代理ヲ拒絕セント欲スルノ理由ヲ開示スルコトヲ得ト雖モ此場合ニ於テ
ハ代理ヲ拒絕スル權利ヲ有スルニ非ラサルナリ

本件抗告人カ控訴人ノ辯護士ニ任設セラレ控訴ヲ提起シタル後千八百八十
五年四月二十一日申請書ヲ控訴院ニ差出シ原告ニ就キ自カラ審議シタルニ
不服ヲ申立ラレタル判決ヲ以テ不當ナリトスル確信ヲ得ス故ニ原告ノ救助
辯護士タルヲ取消サレタシト申立タリ控訴院部長ハ後ニ控訴院ノ承認ヲ

得テ抗告人ノ開示シタル理由事情ハ其附與セラレタル委任ノ趣旨ニ從ヒ控訴申立ヲ爲ス義務ヲ充タスヲ妨ケス唯控訴申立ノ理由ヲ説明スルノ方法ハ抗告人ノ職務ニ從ヒ自由ナル意見ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得トノ理由ニ據リ抗告人ノ申立ヲ却下セリ是レ誠ニ正當ナル所ニシテ抗告人ハ敢テ異議ヲ唱フルコトヲ得サルナリ
抗告人カ原告ノ訴訟代理ヲ拒絕シタルハ懲戒上責ヲ負フヘキモノナルヤ否ヤ(在ライプチヒ獨逸國辯護士名譽裁判所判決(千八百八十五年ベルリン出版)第百十六頁及第百十七頁參照)及辯護士ハ懈怠若クハ其他ノ行爲ニ因リ當事者ノ被リタル損害ニ付キ民法上ノ責任ヲ生スルヤ否ヤハ共ニ茲ニ判定スルノ必要ナキナリ

○千八百八十七年十月十三日決定

〔第二百八〕 前審ニ於テ救助ヲ附與シタルトキハ上級審ニ於テハ其當事者ノ訴訟費用支拂ノ資力ヲ調査スルコトヲ要スルヤ否ヤ
妻ノ離婚訴訟費用ヲ貸渡スヘキ夫ノ義務ト妻ノ

救助請求トノ關係

(千八百八十七年十月十三日決定)

被告妻某ハ離婚訴訟ノ第一審ニ於テ救助ヲ附與セラレ夫某ハ第一審判決ニ對シ控訴ヲ提起セリ而シテ妻某ハ控訴審ノ爲メニ救助ヲ附與セラレンコトヲ申請シタルニ控訴院ハ其申請ヲ現今ニ於テ理由ナキモノトシテ却下シタリ其理由トセル所ハ夫某ハ妻某ニ離婚訴訟ノ費用ヲ貸渡スノ義務アリ而シテ夫某ハ其資力ナキ者ニ非ラサルコト明確ナリト云フニ在リ
夫某ノ抗告ハ理由ナキモノトシテ却下セラレタリ

理由

民事訴訟法第百十條第二項ハ前審ニ於テ救助ヲ附與セラレタル當事者ニ對シテ上級審ノ爲メニ救助附與ノ申請ヲ爲スノ際更ニ無資力ノ證明ヲ爲ス義務ヲ免除セリ然リト雖モ此規定ハ上級裁判所カ救助附與ノ要件存セルヤ否ヤヲ審査スルノ權限ヲ奪ヒタルモノニ非ラス寧ロ第百十二條ニ於テ裁判所ニ附與シタル一般ノ權限即チ救助ハ之ヲ附與シタル要件存セザリシト又ハ

(二)我第九十四條第二項ニ當ル

(二)我第九十五條ニ當ル

○千八百八十八年一月三十日決定

消滅シタルコト判然シタルハ何時タリトモ之ヲ取上ルコトヲ得ルノ權限ハ當然亦上級審ノ爲メニ申請シタル救助附與ヲ許否スルノ權限ヲ包含スト謂ハサルヘカラス唯夫レ權利伸張又ハ權利防禦ノ輕忽ニ出テ又ハ見込ナシト見ユルヤニ付テノ調査ハ相手方カ上訴ヲ提起シタル後ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得サルナリ

九四二

妻ハ普魯西普通民法第二卷第一節第七百二十六條ノ規定ノ許セル方法ニ據リ夫ニ對シ妻ノ嫁資財産中ヨリ若シ又之ナキニ於テハ夫自身ノ財産中ヨリ訴訟費用ヲ貸渡スヘシト請求シタルモ其効ナカリシコトニ付キ何等ノ提示ヲ爲ササル限りハ未タ妻ハ訴訟費用ヲ支出スルノ資力ナキ者ナリト謂フコトヲ得サルナリ

已上ノ理由ニ依リ本件抗告ハ理由ナキモノトス
〔第二百九〕 救助ヲ附與セラレタル當事者ノ手数料追拂ノ義務ニ付テノ申立却下セラレタルキハ申立人ハ抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ

（千八百八十八年一月三十日決定）

理由

抗告人辯護士甲某ハ受救權ヲ附與セラレタル被告乙某ノ附添辯護士トナリ被告乙ハ第一審ニ於テ本案并ニ費用ノ點ニ付キ敗訴セリ而シテ第一審判決ノ確定シタル後辯護士甲ハ民事訴訟法第百十六條及第百十七條ニ據リ共同被告乙ハ財産ヲ所有セルヲ以テ第一審判決ニ於テ乙ノ負擔ニ歸シタル訴訟費用中ニテ辯護ノ手数料タル分ヲ追拂ヒスヘキ宣言ヲ求ムトノ申立ヲ爲シタリ受訴裁判所ハ乙ノ書面訊問ヲ爲シタル後乙ノ財産ハ其必要ナル生計ヲ害セスシテ民事訴訟法第百十六條ニ掲クル額ヲ支拂フニ足ラストシ千八百八十七年十一月二十一日決定ヲ以テ辯護士甲ノ抗告ヲ却下セリ辯護士甲ハ此決定ニ對シ抗告ヲ爲シ控訴院ハ千八百八十七年十二月十九日決定ヲ以テ抗告ヲ許スヘカラサルモノトシテ却下シ費用ヲ抗告人ノ負擔ニ歸シタリ而シテ辯護士甲ハ更ニ大審院ニ抗告ヲ爲セリ
此抗告ハ許スヘキモノトス然レモ實上其理由ナキモノトス

（二）我第百條及第百一條ニ當ル

九四三

前審判事ハ民事訴訟法第百十八條ノ趣旨ニ據レハ抗告ハ救助附與ヲ拒否シ又ハ取上ケ又ハ費用ノ追拂ヲ命スル裁判ニ對シテノミ之ヲ爲スコトヲ得之ニ反シテ救助取上ニ付テノ申立又ハ費用追拂ノ命令ニ付テノ申立ヲ却下シ貧窮ナル當事者ノ利益トナル決定ニ對シテ抗告ヲ爲スハ法律ノ認メサル所ナリト謂ヘリ

民事訴訟法第百十八條ハ抗告ヲ爲ス權利ヲ其實體上ヨリ網羅シテ漏ス所ナク規定スルノ目的ニ出ツルヲ其解釋上疑フヘカラス然レモ抗告權ヲ有スル者ハ貧窮ナル當事者ノミニシテ相手方其他反對ノ利害關係ニ由リ訴訟ニ加ハル者殊ニ亦救助辯護士ハ總テ此權利ヲ有セス該條ニ於テハ上訴ヲ許サハルニ關シテハ救助ノ附與セラレタル場合ノミヲ掲クト雖モ而カモ亦救助權ノ拒否若クハ取上ノ場合及ヒ費用追拂ノ命令ノ場合ヲ對列セルニ據リテ之ヲ觀レハ救助附與ノ場合中ニハ裁判所カ救助ノ存續若クハ効果ヲ障害スル申立ヲ却下スル場合ヲ包含セリト謂ハサルヘカラス蓋シ法律ノ精神ハ何レノ場合ニ於テモ皆同一ナリ裁判所若シ救助ヲ取上ケ又ハ延期シタル額ノ

追拂ヲ爲サシムルノ要件存セストスルモ即チ救助附與ノ要件尙ホ存續セルコトヲ表明スト雖モ救助附與ノ要件ノ存否ヲ審査スル裁判所ハ救助附與ノ場合ニ於テハ唯一ノ裁判所ナルカ故ニ彼ノ存續若クハ効果ヲ妨害スル申立ヲ却下スル場合ニ於テハ其裁判所ノ認定ヲ更ニ上級裁判所ノ監査ノ下ニ置クヘキ實際上ノ必要ナキナリ(千八百八十七年二月十七日決定參照)

73
19

明治二十九年二月十三日印刷
明治二十九年二月十六日發行

(定價金五拾錢)



著 者

宮 田 四 八
東京市芝區愛宕下町四丁目五番地

著 者

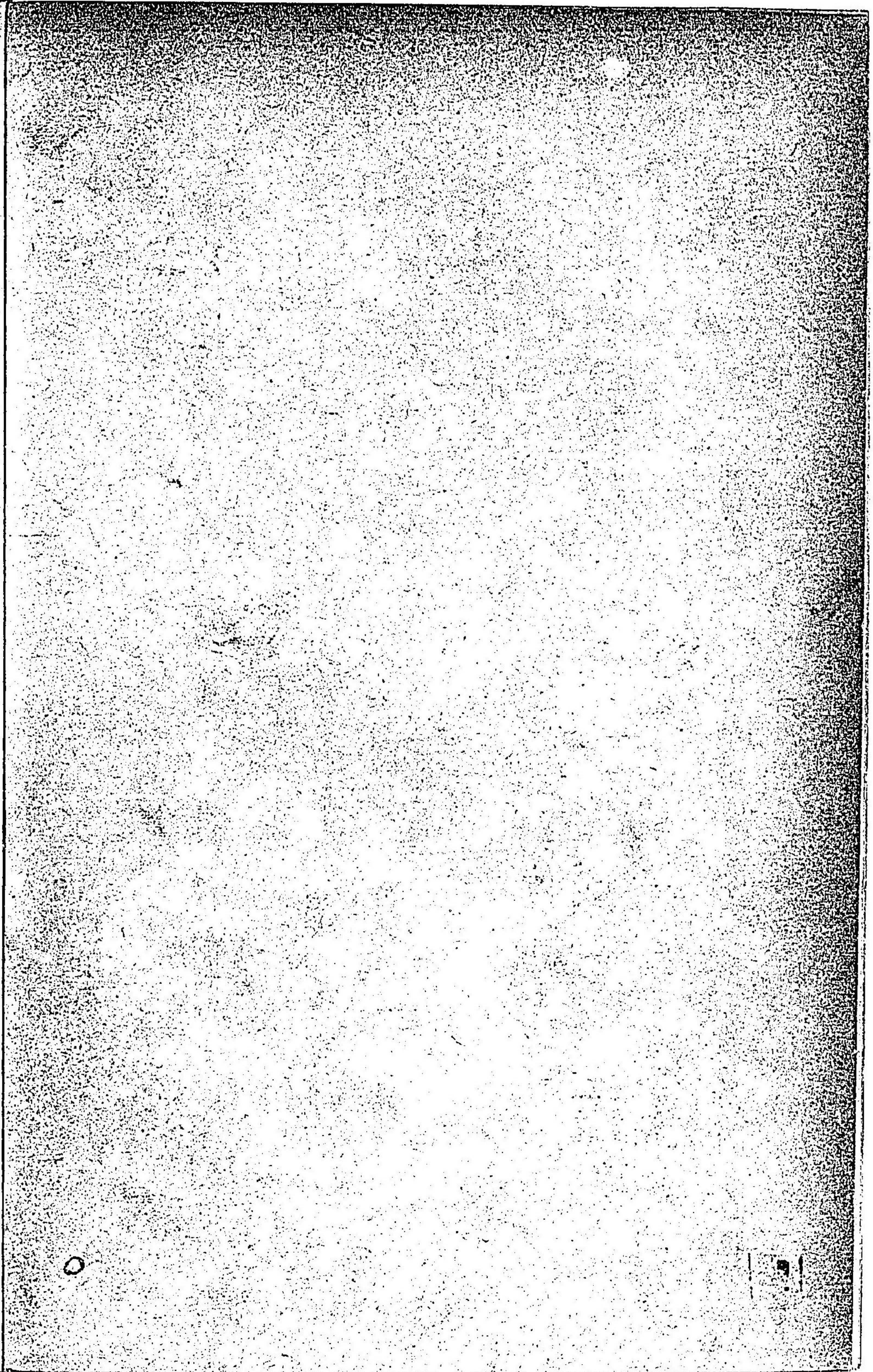
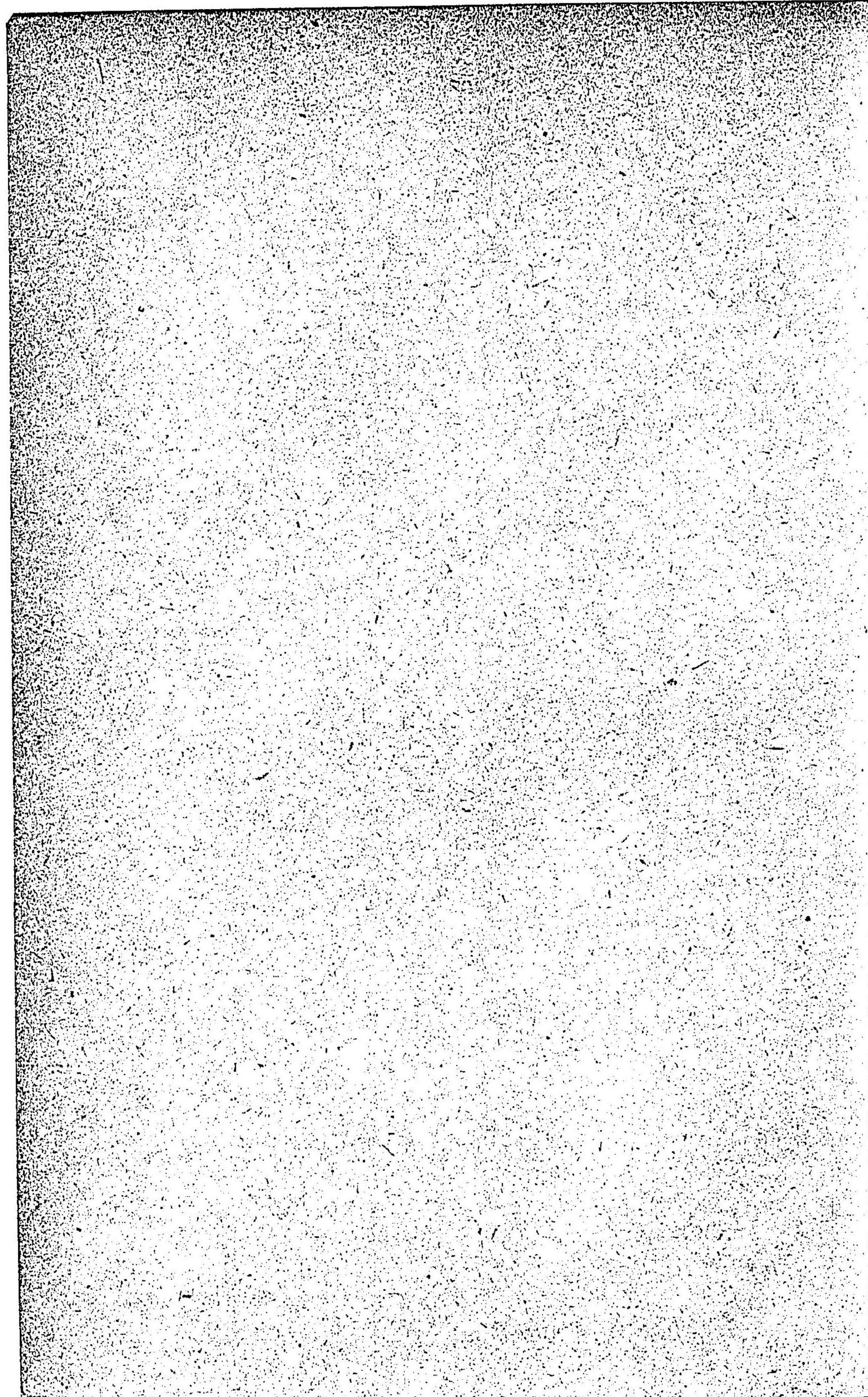
瀨 田 忠 三 郎
東京市神田區三崎町一丁目一番地

發 行 兼 印 刷 者

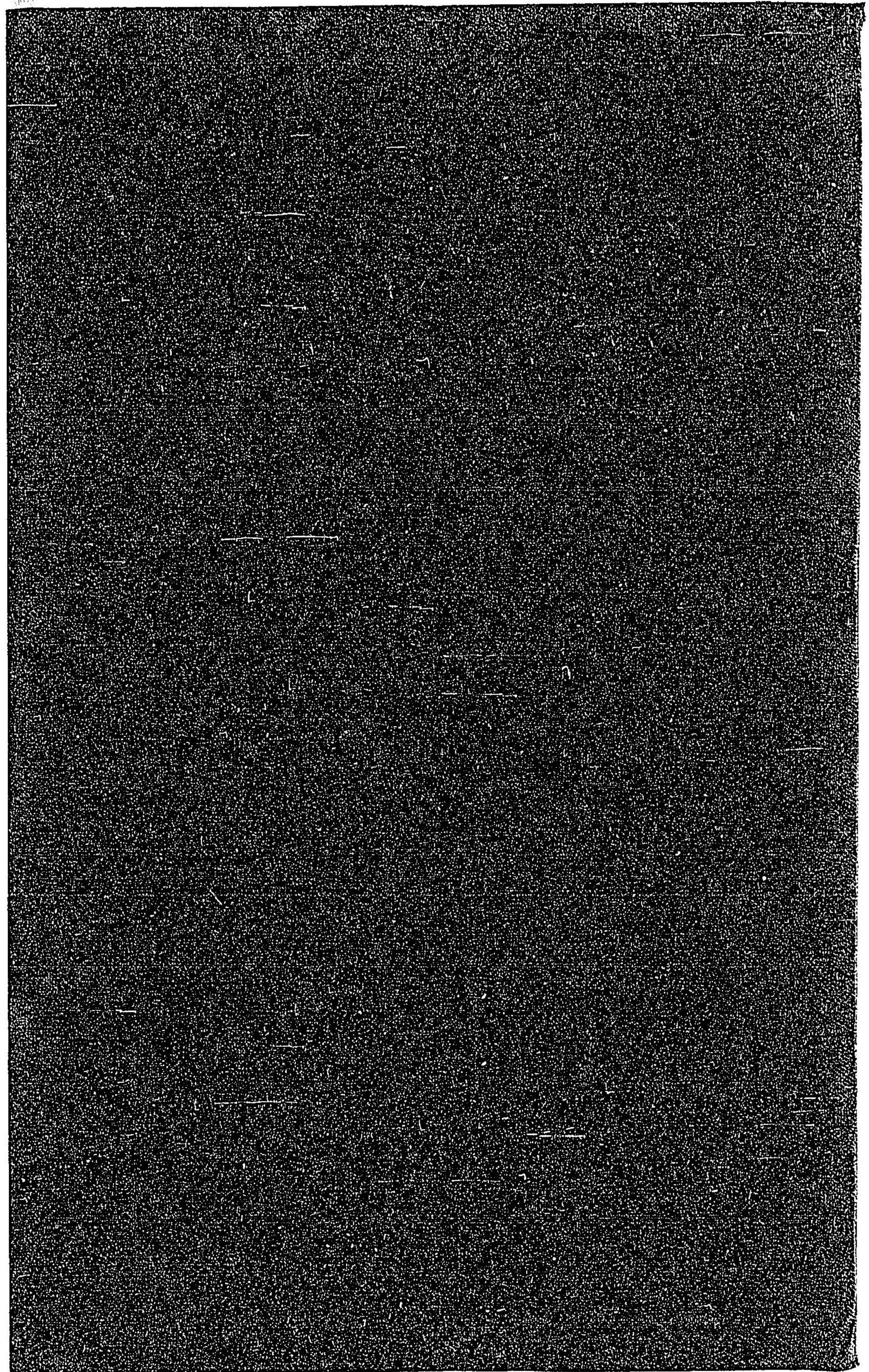
望 月 良 彦
東京市本郷區森川町一番地仲通
第二二九號

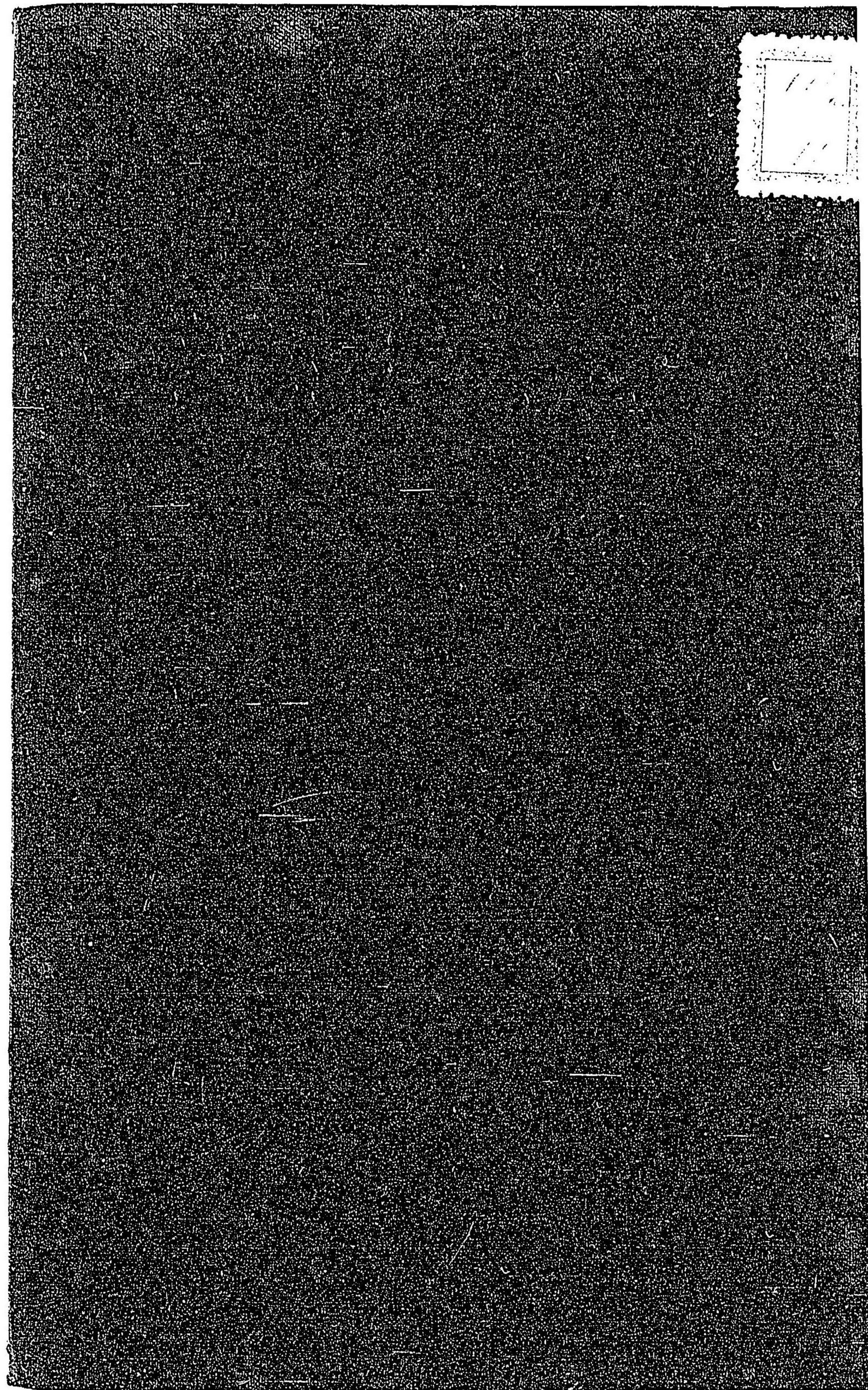
印 刷 所

株式會社 秀英舍第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目
十二番地



147
4





73
19